

アジア・アフリカ図書館だより

第7号

令和3年10月

『郭沫若文庫の案内』 — 文庫の内容紹介を中心に —

長引くコロナ禍により図書館活動も停滞ぎみでしたが、新たに活性化を目指して活動しています。今年度の特別展示では当図書館の「郭沫若文庫の案内」を取り上げました。この「文庫」は60年前新中国の傑出した文化人郭沫若の日本亡命中に作られた業績である文献や書籍・資料など約1450点からなる貴重な文化財の寄贈を受けたもので、その内容は『郭沫若文庫目録』として整備されています。

これまでの案内では郭沫若の紹介に重点が偏りがちであったものを文庫の内容（文化財）の紹介に改めました。それは「郭沫若文庫」の内容はいずれも郭沫若の多彩な業績を裏付ける貴重な文化財であることから、その内容と特色を紹介することの方が設立の趣旨に適うという観点に立ったためです。

2013年にリニューアルオープンしたアジア・アフリカ図書館は、三鷹市とのパートナーシップ協定に基づいて、閲覧を市民にも開放したり、「文庫」の文化財の一部を市立南部図書館に展示していただいたりして、市民の閲覧に供し利用の充実を図っています。

このたびの特別展示は利用する方々に「郭沫若文庫」の中身を知っていただき、郭沫若の貴重な文化財を通して郭沫若やアジア世界に関心をもっていただく

ことを目指しています。

アジア・アフリカ図書館ではここ数年来毎年アジア・アフリカ世界において、注目される重要なテーマを掲げて特別展示を催し、当図書館の図書・資料などへの関心を深めていただくため『図書館だより』も刊行していますが、今回はその第7号になります。以上このような趣旨をご理解いただきアジア・アフリカ図書館に親しみご来館下さいますようお願いしています。



郭沫若文庫内書架

図書館長あいさつ

貴重な文化財を生かす

かつて当財団創設者の一人菊地三郎が郭沫若からの貴重な文化財の寄贈を受けて「郭沫若文庫」設立の動きを報告するため来日中の郭氏を訪ねた時、「個人や国の名ではなく全アジアを包み込むような名称にしたらどうか」と述べられました。

郭沫若のこの意向が「アジア文化図書館」の名称を生み、「郭沫若文庫」は貴重な文化財として「アジア文化図書館（現アジア・アフリカ図書館）」が保存・管理することになったと言われます。

このことは、郭沫若の偉大な業績を裏付けるものが「文

アジア・アフリカ図書館長 篠原 昭雄

庫」の文化財であって、それを生かすことこそ設立の本旨であると考えられます。

本年の特別展示のテーマは、従来「文庫」の案内という郭沫若個人の紹介に重点が置かれていたものを改め、「文庫」の文化財を生かすことが設立の趣旨に適うという観点から企画したものです。

このことをご理解いただき展示を通して「郭沫若文庫」に親しんでいたければ幸いに存じます。



「郭沫若文庫」の案内

郭沫若先生略年譜

1861年 四川省乐山に生まれる。
 1914年 日本に留学する。
 1918年 九州帝国大学文学部に入る。ハイネ、ゲーテ、イブセンらを知る。
 1921年 ケーテ『ファウスト』の訳出版をする。
 1923年 九州帝国大学中、東洋を離れて上海に渡る。「創造週刊」発行。
 1925年 北伐に参加。武漢政府の政治部副長に任ぜられる。
 1927年 蒋介石のクーデターが起こる。
 1927年 蒋介石による逮捕を逃れて、上海へと脱出する。
 1928年 千葉県市川市に居住。「霞」等出版。
 1929年 「我の幼年」「反正前後」等出版する。
 1930年 「中国近代社会研究」出版する。
 1931年 「黒潮」「甲寅文字研究」等出版する。
 1932年 「古文書考」「創造十年」等出版する。
 1933年 「古代名劇考」「卜辞通纂」等出版する。
 1935年 「石鼓文研究」「屈原」(研究)等出版する。
 1937年 華南日本を脱出して、国民党の抗日戦線に参加する。
 1938年 軍事委員会政治部第三科の編輯に兼ずる。主任となる。
 1942年 国・共分裂後の重慶で「屈原」(戯曲)出版する。
 1945年 歴史学者としてアソウト科科長に就任する。
 1949年 政治協定会議に歴史代表として参加する。
 1949年 中華人民共和国内閣副総理、中国科学院副院長となる。
 この間、全国人民代表大会常務委員会副委員長を務める。
 中日友好協会名誉委員長も兼任する。
 1978年 北京にて永眠。



郭沫若とその多彩な業績から見た「郭沫若文庫」

郭沫若は近代中国が生んだ傑出した文化人です。その業績を見ると、マルキシズムを信奉する著名な歴史学者、古代文字学者であると同時に、中国の現代文化史上に輝いた足跡を残した博覧強記、才能豊かな学者の一人でした。さらに新中国の文化建設に光り輝く傑出でもありました。その業績は多彩で詩・文学・史劇、中国古史や古代文字研究においても優れたものが数多くあります。また著書においても隨筆を綴り通して独学で書かれたものも少なくありません。その業績は中国を代表する著名な一人に数えられています。どの分野（ジャンル）の業績においても、郭沫若文庫の諸資料はいずれも第一級の文化財です。

「郭沫若文庫」は、1950年代の半ばに郭沫若より日本亡命時代に用いた研究に関係した圖書・資料と書中に手書きした手沢本などが当時の中日文化研究所に寄贈されたことが契機となって、小倉正恒、菊池三郎はじめ当時の政界・財界人や文化人など著名な方々の力で、「郭沫若文庫」設立の動きとなりました。開設時には郭沫若の意向もあって「アジア文化図書館」と名称を変更しましたが、アジア・アフリカ文化財財源創設の基礎となりその後人材育成のためのアジア・アフリカ語学奨励会も出来、60年の歴史に達して今日に至っています。

多彩でそれぞれに優れた才能と業績を持つ郭沫若によって寄贈された、日本亡命中に手掛けた文化・研究活動とその業績を裏付ける諸資料を整理・保存していることが、郭沫若文庫の重要な特色であり文庫の貴重な文化的価値はこのようにあります。本展示では郭沫若の広範な業績諸資料を、「文学」、「書」、「古代史研究」及び「古代文字研究」のジャンルに分けて紹介しています。

郭沫若が愛読した中国古典と思想形成に影響を及ぼした書籍



郭沫若が愛読した図書で、これらに基づいてある程度の内容の付録は、郭沫若自ら手書きした書き込みのあるところ。手沢本は郭沫若が特に関心を持ったところを示すので、それが「文庫」にある書籍の大きな特色です。

手沢本の例



郭沫若の書（下）「屈原」(研究)の一頁
 「屈原」は屈原の偉大なる詩人の生涯と、その時代の作です。郭沫若は「屈原」を愛読し、その中の神話的想像の部分を「我」で書き加えています。「屈原」は内閣に送られ、内閣で読まれる機会も多かったといわれています。郭沫若の屈原研究にも、郭沫若自身による手書きの書き込みが数多くあり、郭沫若の屈原研究の軌跡がここから読み取れます。

郭沫若の業績—文学

自伝

郭沫若は、生涯から抗日戦争参加にいたるまでの激しい政治的生涯と、時代ごとに「我の幼年」「反正前後」「黒潮」など著しています。これらの自伝は激動の時代の郭沫若を知る上での貴重な証言でもあります。



詩

郭沫若は、ロマンチズムの詩人として、古くから中国文学の全盛であった旧詩（文語体詩）に代わり、新詩（口語による自由詩および新体詩）を発展し、中国の現代新詩の基礎を築きました。代表作となった第一詩集『女神』は、日本留学中の作品を含む54首の詩と『女神の再生』など新詩の詩集からなり、困難への反抗、自由への憧れ、新しい文化創造の情熱といった時代の精神を体現するものとして、著者たちの心を開き、建設的な人々を導きました。



翻訳

九州帝国大学文学部に入塾した郭沫若は、年少期の再興で勉学に問題があり試験が受けにくいことに基づき、医学を諦める事になりました。しかし、医学部の学生としてドイツ語、英語を習得したことが、タゴール、ゲーテ、ハイネ、シェンケ、ホイトマンなどの西洋文学から大きな影響を受けて文学的才能を開花させます。そしてゲーテ、ツルゲーネフ、トルストイなど各国の著名な作家を翻訳し、新しい思想を伝える中国に西洋近代文学を広める役割を果たしました。

また、1924年に河上肇の『社会組織と社会革命』を翻訳して『社会組織と社会革命』を著しました。この翻訳によってマルクス主義の思想から大きな影響を受け、歴史観や文学観に大きな変化が生じました。



史劇

史劇とは、古代中国の文学作品に現代の中国や郭沫若自身を投影しているものなどがあり、郭沫若は『屈原』『虎符』などの史劇を著し、その中に彼の理想が込められています。

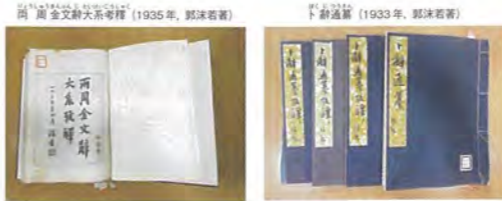
『屈原』は代表的な史劇で反逆精神を表現し光明を求めた楚の政治家・詩人であった屈原の生きた時代に当時の中国の状況を重ね合わせた作品です。完成した年に重要な国家劇院（影劇院）で上演され、延べ30万人近い観客が詰めかけたほどの熱狂を博しました。



郭沫若の業績—古代史

古代文字研究

郭沫若文庫に入ると全面に開かれた文字・図の甲骨文字関係の古代文字に関する様々な文献や全書が書架に並んでいます。また、中には老子、荘子、荀子などの古典など古代の文字や諸文献も整然とおさまっています。郭沫若が中国の古代文字の研究を始めたのは、日本に亡命した時期で、古代中国の研究を行うにあたり、甲骨文字や青銅器に残された銘文の理解が必須と考えたためでした。郭沫若は、小石川にあった東洋文庫に通い、随筆の発掘による初期の甲骨文字、古代文字研究で著名な王国維や羅振玉の著書を熟読し、それを短期間で習得しました。全くの素人から独学で修めた研究にもかかわらず、わずか10年の亡命期間中の研究によりこの分野における重要な著書を多数残しています。



中国古代史研究

郭沫若が中国共産党による清 孫起の失敗後、日本へ亡命し、十年間千葉県市川市須和田に住んでいます。このとき文芸堂書店の田中慶太郎、東洋文庫主任の石田幹之助、東京大学教授の宮澤俊彦などの協力を得て、中国古代史研究に没頭しました。

代表作である『中国近代社会研究』は、中国の伝統的歴史観（『史記』などによる王朝変遷史）に対し、郭沫若はマルクスの唯物史観に基づき、「殷周革命は西漢まで動き、春秋時代以降が封建制である」としたもので、西洋思想は中国には通用しないとする伝統的歴史観に対し、実証的な研究によって新しい歴史観を進めたものでした。中国に居ても中国の古代史研究の成果をまとめた『政道時代』、『十批判書』、『殷周革命』を出版しました。



1936年河内省安陽縣殷墟調査で商時代の甲骨文字や殷周革命を裏付ける労働の様子や殉死者の遺骨・墳墓などが出土しています。

アジア・アフリカ図書館所蔵の郭沫若の書

郭沫若は、顔真卿（がんしんけい）など中国を代表する書家の作品を研究し、隨筆を繰り返し行い、独学で書が学んだが、その師範は現代中国を代表する書家の1人となっています。郭沫若の書は中国国内の文化施設の看板などいたるところで見受けられるほど多く、さらに日頃から知り合いの人々に自筆の書を贈っていたこともあり多種多様な作品が残っています。字体は行書体と草書体の作品が多くみられますが、郭沫若独自の書風と言われ、ここでは文庫に保存されているものの中からいくつかを紹介します。



「萬壽書」
書家の書名としてしばしば使われる。



閑かに釣りす。茶湯の水。
 風に臨みて。成非書を讀す。
 釣竿、胡み了りて去く。
 旅らず、是れ理の異なるかを。
 石田先生の種屠に、沫若、

清江の使者、茶湯を炊つ。
 七十二種、種は書を成す。
 旅むらば者、新たに余頁の胡を
 有ち、人をして長く種屠を信む
 しめんことを。
 書名先生、茶湯の草葉・種屠の
 陶文を以て愚解せらるるにこれを
 賦して以て種屠、
 郭沫若、江戸川の時に書す。

龍中の天地、天地の一葉、
 龍は書が分た無い、和語は
 此の時に讀る。
 海風も何そ風むに足らん、巧藝
 も徒らに成を誇すのみ。
 然熱した熱熱、幽かに道と過する
 を讀す。
 書名先生の種屠により書す、
 郭沫若、

1904年、郭氏11歳の時の作。漢流で釣竿に釣竿、かかった魚が逃げても釣竿がないという状況に没入する様を描いた。

新発見の甲骨資料を送ってくれた重作書への感謝と賞賛。そして今後のさらなる成果への期待を述べ、また不幸な死をとげた王国維への敬慕の思いをこめたものである。

解説
 図書館流通センター学術情報リサーチセンター
 館長 伊藤 二 資料より

▶ 新型コロナ感染拡大に伴う全面休館

2020年4月と5月は新型コロナウイルス対策のため全面休館にしました。1回目の緊急事態宣言が発令になったことともなう休館でしたが、宣言が終了したため6月からは感染拡大防止対策をして開館しました。

▶ 『改造日報』 みつかる

昨年、当財団創設者の一人である菊地三郎の遺品から、『改造日報』が大量に発見されました。『改造日報』は、戦後間もない上海で在留邦人向けに1945年10月～1946年8月までの間だけ発行された新聞です。日本人に対する思想改造や民主化、引き揚げの様子を研究する上で貴重な資料ですので『図書館だより』（第6号）に掲載しました。国会図書館や上海の図書館にも収蔵していない日付の新聞も多数含まれています。今年度の公開を目指して準備中ですのでご期待ください。

▶ 研究者の来館

昨年度は「郭沫若文庫」の見学はありませんでしたが、今年度になって中国の留学生で日本の大学院で学んでいる学生の来館が2件ありました。郭沫若とマルキシズムについて、或は日本亡命中の交友関係について、などの資料を調査・閲覧しました。

▶ 町田市立国際版画美術館の学芸員が来館

2020年12月4日、町田市立国際版画美術館の学芸員が来館し、戦後当財団でも木刻版画運動が活発であったことに関連して当財団の資料を閲覧されました。同美術館では2022年4月より版画運動についての展示会「戦後日本 二つの民主版画運動展（仮）」の開催が予定されています。

▶ 佐藤比呂志先生からの図書寄贈

当財団の前顧問、佐藤比呂志先生から大量に図書の寄贈がありました。江戸文化を中心として大変興味深い内容になっています。受け入れた図書については、配架してありますのでぜひご利用ください。

▶ 南部図書館に当図書館の図書を展示

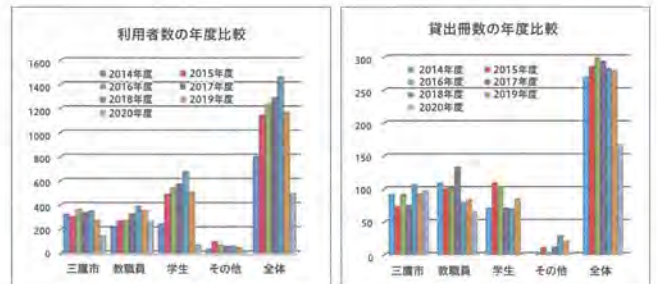
アジア・アフリカ文化財団と三鷹市の間に結ばれているパートナーシップ協定に基づく活動として、毎年アジア・アフリカ図書館の図書を三鷹市立南部図書館に展示していただいています。昨年度のテーマは「文字と言葉」でした。

▶ 「アジア・アフリカを知る集い」

コロナ禍のために延期になっていた「第28回アジア・アフリカを知る集い」が、1年遅れの2021年2月28日にオンラインで開催されました。講演タイトルは「人類生誕の地 アフリカの食と料理 ～料理本の出版で学んだアフリカの智慧～」、講師はアフリカ理解プロジェクト代表 白鳥くるみさん。参加者は24名でした。当図書館にとってオンライン講演会は初めての試みでしたが、質疑応答なども活発に行われました。

▶ 2014年度-2020年度の利用状況比較

アジア・アフリカ図書館利用者は、2019年度以降、新型コロナウイルスの感染拡大による休館等で減少となりましたが、三鷹市民の図書館登録者はあまり変わらず利用していただきましたので、割合が高くなっています。



公益財団法人 アジア・アフリカ文化財団経営 アジア・アフリカ図書館

開館日：火、水、金、土、日（第3水曜、年末年始を除く） 開館時間：平日＝12時～17時、土・日：9時半～17時
〒181-0004 東京都三鷹市新川5-14-16 Tel：0422-44-4640 Fax：0422-46-5107

